令和3(2021) 年7月1日発行

三原市人権文化センターだより

人權讚意会

発行/三原市人権推進課 編集/三原市人権文化センター 住所/三原市長谷1-6-1 電話/0848-66-1111

何が差別とされるのか~国内外の事例から~

講師の小早川 明良(こばやかわ あきら)さんは、被差別部落、中でも軍事都市に形成された近代被差別部落の職業・生活についての研究などを、長年にわたり続けてこられました。今回の講演会では、「何が差別とされるのか」について、国内外の事例やネット差別を題材に、皆さんとともに学びを深めていきたいと思います。皆さんのご参加をお待ちしています。

日 時 7月15日(木) 19時~20時30分

場 所 三原市人権文化センター2階 大会議室

こばやかわ あきら

講 師 NPO法人社会理論・動態研究所 理事 小早川 明良さん

定員 60名(申込み不要) 入場無料

※新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行ったうえで実施します。また感染症の状況によっては、 講演会が延期・中止となる可能性があります。あらかじめご了承ください。

夏本番!タ涼みコンサート

~心のふれあいは密にして~

日 時 7月10日(土) 18:30~19:30

場 所 人権文化センター 2階大会議室

演 奏 三原高校器楽部OB会

定員 50名(事前申込み不要), 入場無料

予定曲 パプリカ、ロッキーのテーマ、紅蓮華

ど演歌えきすぷれす、ドラえもん ほか

※新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行ったうえで実施します。

平和ポスター展

広島・長崎原爆写真ポスター 被爆者自らが描いた原爆の絵(複製) など

① 7月20日(火)~7月28日(水) 中央公民館 ロビー

② 7月30日(金)~8月12日(木) イオン三原店 1階中央Iスカレータ前

③ 8月16日(月)~8月24日(火) 久井保健福祉センター ロビー

④ 8月26日(木)~9月1日(水) 大和支所 ロビー

⑤ 9月3日(金)~9月12日(日) 本郷生涯学習センター エントランスホール

※①,⑤は9:00~21:00 ②は9:00~22:00

③.4は8:30~17:15(土・日・祝は除く)

人権相談

人権相談員が相談をお受けします。 相談は無料で、秘密は守られます。 お気軽にご相談ください。

◇ とき 土・日・祝日を除く10時~16時

◇ ところ 三原市人権文化センター

◇ 電話 0848-66-1111

【裏面にも記事があります】

「憲法を学ぶ市民のつどい」を Youtube で配信します

配信期間 7月1日(木)~7月31日(土)

演 題 「コロナ禍から憲法を考える」

講演 広島大学大学院人間社会科学研究科 教授 新井 誠 さん

URL https://www.city.mihara.hiroshima.jp/soshiki/22/124047.html (三原市ホームページ→組織で探す→人権推進課のページにあります。)

(2次元コード) ■



~ 人権ひろば ~

人権の碑【大和町】 ~前編~



「からゆきさん おキクの生涯」

大和町の豊かな田園風景が広がる土地に、「人権の碑」は建てられています。この碑が建てられるきっかけとなった善道キクヨさんは、この地に生まれ、幼くして両親を亡くし、貧困と差別に苦しみながらこの地で育ち、77年の波乱万丈の人生をこの地で終えました。

今回はキクヨさんの生涯と、人権の碑が建立された経緯を、 今月号と来月号にわたって振り返ってみたいと思います。

1 生い立ち

善道キクヨさんは、五男三女の八人兄弟の末っ子として、1899年(明治32年)、当時の広島県豊田郡 椹梨村に生まれました。キクヨさんが3歳の時に父が、10歳の時には母が亡くなり、その後は兄の増太郎 さんが行商で家族を養い、兄はキクヨさんをとてもかわいがっていました。

貧しく、さらに差別に苦しむ生活の中、小学校4年になった年に姉と同じ岡山のござ工場へ働きに出ることになりました。わずかなお金しかもらえませんでしが、兄を助けたい一心で懸命に働きました。

岡山で働き始めて5年、「神戸の宿屋の女中奉公(家事の手伝い)ならもっとお金が稼げる」と、ある人に言われ、「兄にお金を送ってあげたい」との思いから、言われるまま汽車に乗り、神戸へ向かいました。

2 だまされて、マレーシアに連れていかれる

汽車の次には船に乗せられました。船底のうす暗い部屋で何日も船に乗ったまま東南アジアのマレーシアに連れていかれました。連れていかれたのが外国と分かった時、キクヨさんは途方にくれ何度も死にたいと思って泣いたそうです。そして、600円という当時としては、ばく大な金額の借金があることを知り、わずか17歳でそのお金を返すために働くことになりました。

キクヨさんが売られたのは、クランという町の娼館(売春宿)でした。一日も早く借金を返して、そこから逃げたい一心で働き、厳しい監視と監禁の中、3年間で借金を返し終え、晴れて自由の身となりました。自由の身になったものの、キクヨさんは帰国を断念します。その理由の一つは、マレーシアの地でも、部落差別がついてまわったことでした。日本の人が集まって話をすると、差別言動が目の前で行われることがあり、キクヨさんは、身のすくむ思いで聞きながら日本には帰るまいと決心したのです。

3 さまざまな「出会い」

キクヨさんが30歳のころ、知人の紹介でインド人の人と結婚することになりました。しかしその人には3歳になる子供が一人いて、その世話をするなど正式な結婚ではなく、実態は家政婦でした。

そんな生活の中,日本から来た西村さんという方の家で働くことになりました。親切な西村さんのもと,今までにない幸せで安定した生活を送り,「身内の人を探してあげる」などと言ってもらっていました。

でもそんな西村さんにでさえ、「身内はみな原爆で死んだ」と自分の出身地を明かすことはありませんでした。そのことで追い出されることを心配していたのです。70歳を超えた

自分の今の生活を、口を閉ざすことで守らなければならなかったのでした。

1973年(昭和48年)映画監督の今村昌平さんが「からゆきさん」製作のために行ったマレーシアのクアラルンプールでの現地取材でキクヨさんに出会いました。

取材を続ける中で、キクヨさんの言葉から大和町内の地名を突き止め、当時の大和町 役場へ照会の手紙を出しました。 【後編に続く】

- ★参考・引用文献
- ・大和町『人権の碑』記録集 ーキクヨさんはみつめるー 平成17年 大和町
- ・からゆきさんおキクの生涯 大場 昇 平成13年 明石書店